

水稲・トビイロウンカに注意！

- ・トビイロウンカの発生が、西日本を中心に広範囲でやや多い～多いと予想されています。
- ・大阪府内でも、7月以降、予察灯への飛来頭数が平年より多く、8月の泉州地域における巡回調査では、従来ほとんど見られなかった地点でトビイロウンカの発生が確認されました。
- ・向こう1か月の平均気温は平年に比べ高く、本虫の急激な増殖が懸念されます。

○トビイロウンカとは

- ・成虫は4～5mmで、体色は脂ぎった褐色。
- ・成虫は長翅型（図1）と短翅型があり、長翅型が梅雨時期に大陸から飛来し、次世代以降に主に短翅型が増殖する。8月以降急激に増殖し、秋に被害を起こすため通称「秋ウンカ」と呼ばれる。
- ・成虫と幼虫が株元で吸汁加害して急激に増殖し、多発すると秋に「坪枯れ」を生じさせる（図2）。



図1 トビイロウンカ長翅型成虫
※大阪府植物防疫協会 提供



図2 トビイロウンカによる「坪枯れ」被害

○防除方法

- ・トビイロウンカは水田内で局所的に発生するため、水田内を広く見回り、株元を観察する。
- ・8月中旬～9月上旬に発生が認められるほ場では、表1の薬剤を使用時期（収穫前日数）に注意しつつ、すみやかに散布する。
- ・トビイロウンカは株元に多いので散布時は株元まで十分に薬剤が行き渡るように注意する。
- ・早期落水は坪枯れの発生を助長するので、適期落水に努める。
- ・刈り遅れないよう早めに適期収穫する。

表1 主な防除薬剤

薬剤名	系統 (IRAC)	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
スタークル粒剤 ※1 アルバリン粒剤 ※1	ネオニコチノイド系(4A)	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン粒剤 ※1	ピレスロイド系(3A)	2～3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内
スタークル豆つぶ ※1	ネオニコチノイド系(4A)	250g～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内
なげこみトレボン ※1、2	ピレスロイド系(3A)	水溶性容器 10 個(500ml)/10a	収穫21日前まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系(4A)	3,000 倍	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	ピレスロイド系(3A)	1,000～2,000 倍	収穫14日前まで	3回以内
エクシードフロアブル	スルホキシミン系(4C)	2,000 倍	収穫7日前まで	3回以内

※1) 粒剤、豆つぶ剤、なげこみ剤は湛水状態で使用し、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。

※2) なげこみ剤は、藻類やウキクサが多発している水田では、薬剤の拡散が妨げられるので使用しない。

●Web版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)